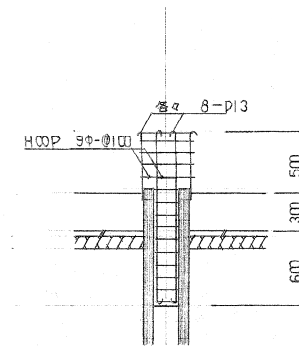
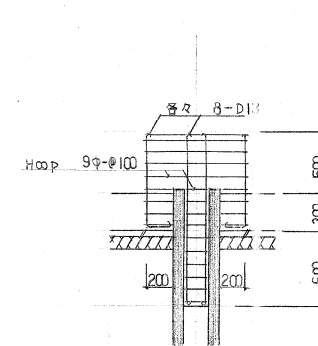


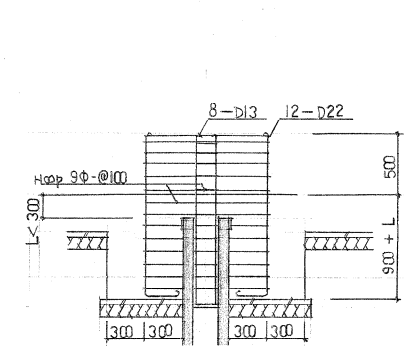
杭打止処置詳細図



正根打込

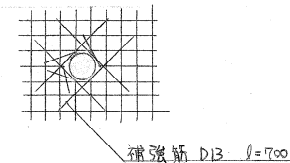


Cutする場所



打込過ぎる場合

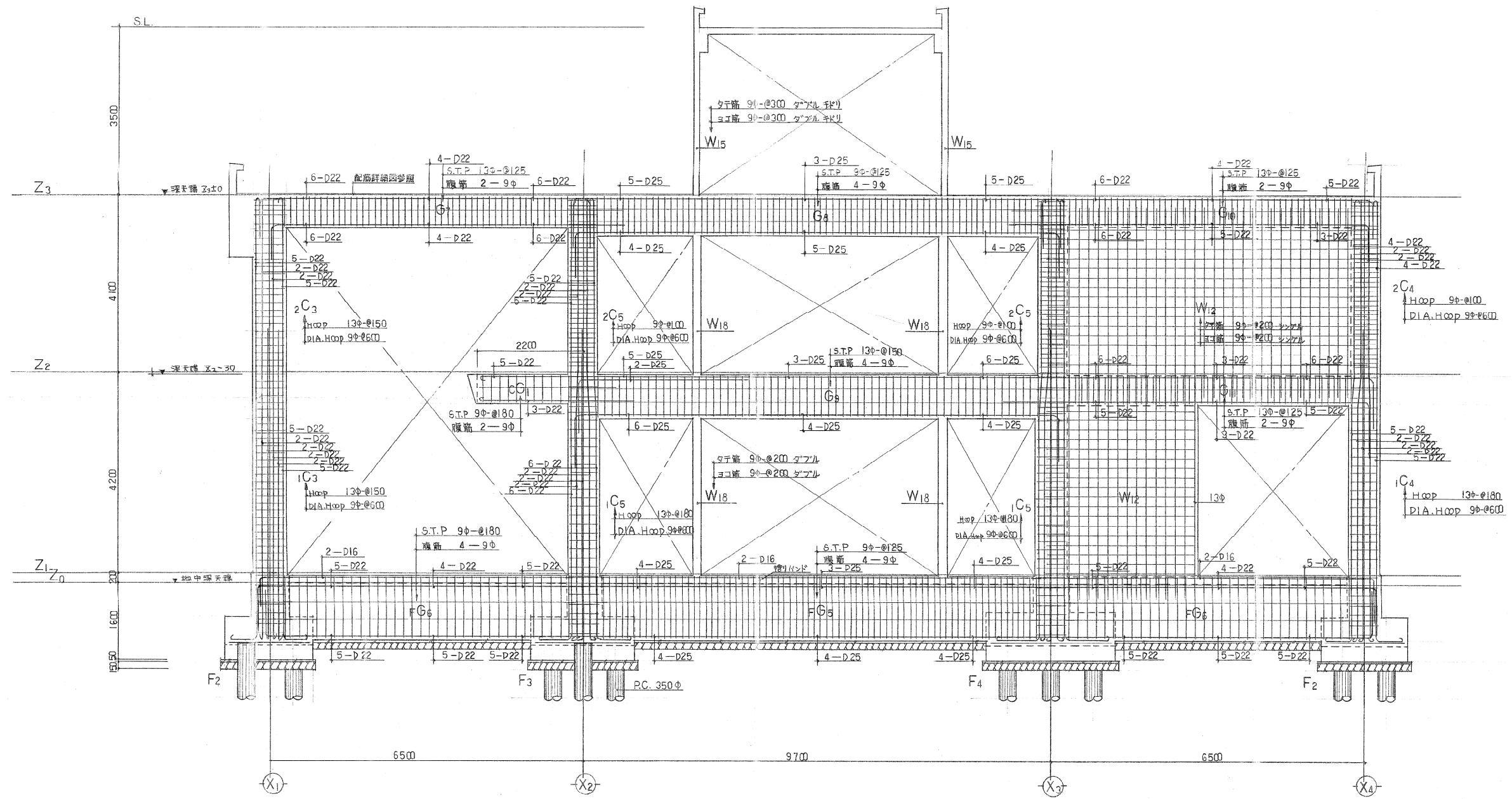
A部詳細図 1:50



各杭共通とする

設計番号	豊橋市白ヶ池会館(仮称)新築工事	
図面番号	基礎リスト	縮尺
構 205	杭打止処置詳細図	1:30

※本資料は、昭和50年時点の図面であり、その後の改築等により、現施設とは整合しないことに留意すること。



Y<sub>3</sub> 通リラーメン図

設計番号	豊橋市白河地金館(仮称)新築工事	
図面番号	Y <sub>3</sub> 通リラーメン図	縮尺
構 206		1:50

鉄筋の標準的厚さ	鉄筋の曲げ内法半径及び折曲り要領	鉄筋の定着及び継手長さ	鉄筋の継手要領 (19mm以上はガス圧接とする)	鉄筋の定着要領 (柱)	柱の配筋要領																																									
<table border="1"> <tr> <th>構造物の種類</th> <th>鉄筋の厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>床スラブ</td> <td>一般 20 (30)</td> </tr> <tr> <td>柱梁壁</td> <td>一般 30 (40)</td> </tr> <tr> <td>基礎スラブの上側</td> <td></td> </tr> <tr> <td>床スラブ柱梁壁と柱梁壁と接する面</td> <td>30 + (20)</td> </tr> <tr> <td>基礎基礎スラブの下側 (橋り脚コンクリートを除く)</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>造安 (独立煙突は除く)</td> <td>50</td> </tr> </table> <p>注)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 鉄筋厚さは表外側鉄筋面からの寸法とする。</li> <li>2 ( ) 内の数字は断面表記入寸法に要する追加寸法を示す。</li> <li>3 表( ) 内は人口軽量コンクリートの割合で仕上げの寸法を示す。</li> </ol>	構造物の種類	鉄筋の厚さ (mm)	床スラブ	一般 20 (30)	柱梁壁	一般 30 (40)	基礎スラブの上側		床スラブ柱梁壁と柱梁壁と接する面	30 + (20)	基礎基礎スラブの下側 (橋り脚コンクリートを除く)	60	造安 (独立煙突は除く)	50	<table border="1"> <tr> <th>箇所</th> <th>鉄筋径 (mm)</th> <th>折曲り要領</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">主筋部</td> <td>SR-24 SD-24</td> <td>15°以上 (I) 曲げ半径が180°の場合 (柱梁の主筋等)</td> </tr> <tr> <td>SD-30</td> <td>20°以上 (II) 曲げ半径が90°の場合 (梁の支筋等)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間部</td> <td>SD-35 SD-40</td> <td>15°以上 (I) 曲げ半径が150°の場合 (梁上・Y筋等)</td> </tr> <tr> <td>SR-24 SD-24</td> <td>15°以上 (II) 曲げ半径が90°の場合 (梁の支筋等)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>8.0°以上</td> <td>(III) 曲げ半径が90°支筋の場合</td> </tr> </table> <p>注) 10mm以上の鉄筋の支筋部は(II)又は(III)に依る。</p>	箇所	鉄筋径 (mm)	折曲り要領	主筋部	SR-24 SD-24	15°以上 (I) 曲げ半径が180°の場合 (柱梁の主筋等)	SD-30	20°以上 (II) 曲げ半径が90°の場合 (梁の支筋等)	中間部	SD-35 SD-40	15°以上 (I) 曲げ半径が150°の場合 (梁上・Y筋等)	SR-24 SD-24	15°以上 (II) 曲げ半径が90°の場合 (梁の支筋等)	その他	8.0°以上	(III) 曲げ半径が90°支筋の場合	<table border="1"> <tr> <th>定着及び継手長さ</th> </tr> <tr> <td>SD 30</td> <td>5D</td> </tr> <tr> <td>SD 35</td> <td>5D</td> </tr> <tr> <td>引張鉄筋の場合 S<sub>1</sub></td> <td>40d</td> </tr> <tr> <td>圧縮鉄筋の場合 S<sub>2</sub></td> <td>30d</td> </tr> <tr> <td></td> <td>40(50)d</td> </tr> </table> <p>注) 1 d は鉄筋の公称直径に依る。( ) 内の数字はコンクリートの強度を示す。 2 柱の出筋は鉄筋の継手長さは柱の鉄筋に依る。 表外側鉄筋の定着及び継手で下に規定の割合に依りて75%とする。 1 柱の出筋は鉄筋の定着位置にある主筋。 2 梁の出筋は鉄筋の定着位置にある鉄筋の継手位置に依りて1/3以上は鉄筋の支筋は除く。 3 梁の出筋は鉄筋の定着位置にある主筋。 4 煙突の主筋。 5 片梁の主筋の支筋部</p> <p>注) 印は鉄筋の付着位置</p>	定着及び継手長さ	SD 30	5D	SD 35	5D	引張鉄筋の場合 S <sub>1</sub>	40d	圧縮鉄筋の場合 S <sub>2</sub>	30d		40(50)d	<p>柱梁梁筋の継手位置</p> <p>床スラブ筋の継手位置</p> <p>注) 1 斜め筋は継手位置を示し継手中心を以て継手位置とする。 2 スラブ筋の継手位置は柱上及び梁上継手位置とする。</p>	<p>鉄筋の定着要領 (柱)</p> <p>梁筋が S<sub>1</sub> 以上の場合</p> <p>梁筋が S<sub>2</sub> 以下の場合</p>	<p>柱の配筋要領</p> <p>注) 1 主筋の曲げ位置では2本の規定フープを使用する。 2 フープは規定寸法に割込みとする。</p>
構造物の種類	鉄筋の厚さ (mm)																																													
床スラブ	一般 20 (30)																																													
柱梁壁	一般 30 (40)																																													
基礎スラブの上側																																														
床スラブ柱梁壁と柱梁壁と接する面	30 + (20)																																													
基礎基礎スラブの下側 (橋り脚コンクリートを除く)	60																																													
造安 (独立煙突は除く)	50																																													
箇所	鉄筋径 (mm)	折曲り要領																																												
主筋部	SR-24 SD-24	15°以上 (I) 曲げ半径が180°の場合 (柱梁の主筋等)																																												
	SD-30	20°以上 (II) 曲げ半径が90°の場合 (梁の支筋等)																																												
中間部	SD-35 SD-40	15°以上 (I) 曲げ半径が150°の場合 (梁上・Y筋等)																																												
	SR-24 SD-24	15°以上 (II) 曲げ半径が90°の場合 (梁の支筋等)																																												
その他	8.0°以上	(III) 曲げ半径が90°支筋の場合																																												
定着及び継手長さ																																														
SD 30	5D																																													
SD 35	5D																																													
引張鉄筋の場合 S <sub>1</sub>	40d																																													
圧縮鉄筋の場合 S <sub>2</sub>	30d																																													
	40(50)d																																													
<p>鉄筋の定着要領 (梁)</p>	<p>鉄筋の定着要領 (床スラブ、壁)</p> <p>注) 1 上筋は鉄筋の直径間隔を2倍とし、梁筋が16mm以上の場合は13°で定着と同間隔とする。</p>	<p>柱梁断面配筋要領</p> <p>注) 1 フープの定着位置は上下同一箇所に集中しないこと。 2 筋節筋は [ ] 筋にて柱筋中央に柱筋の中心に依りて</p>	<p>床スラブ配筋要領</p> <p>注) 1 折曲り筋の筋節は15mm以上のスラブ厚と同径とする。 2 床スラブ厚が200mm以上の場合は1mに1個所以上D13にて上下筋を連結する。</p>	<p>壁配筋要領</p> <p>注) 1 壁配筋はタテ筋を外面筋とする。 2 タテ筋の場合 1mに1個所以上9°筋にて内外筋を連結する。</p>	<p>梁の配筋要領</p> <p>注) 1 スラブラップの間隔の最大値は L/4 である。 2 スラブラップは規定寸法に割込みとする。 3 スラブラップの位置は柱の筋位置とする。 4 基礎梁が柱市制の場合にスラブラップは D16-4 200mm</p>																																									
<p>床スラブの出張入隅部補強要領</p> <p>注) 1 補強筋は各3-D13 (L=3,000) とし上筋部の下部に配筋する。 2 床スラブ厚が16mm以上の場合は床スラブ筋と同径筋を使用する。</p>	<p>床スラブの開口補強要領</p> <table border="1"> <tr> <th>開口の寸法</th> <th>表鉄筋補強筋</th> <th>底鉄筋</th> </tr> <tr> <td>200x200 &lt; A ≤ 400x400</td> <td>2-D13</td> <td>1-D13</td> </tr> <tr> <td>400x400 &lt; A ≤ 800x800</td> <td>4-D13</td> <td>1-D13</td> </tr> </table> <p>注) 1 表鉄筋は補強筋は4筋、底鉄筋は1筋とする。 2 床スラブ厚が16mm以上の場合は補強筋は床スラブ筋と同径筋を使用する。 3 3筋スラブ筋部は D13-200mm</p>	開口の寸法	表鉄筋補強筋	底鉄筋	200x200 < A ≤ 400x400	2-D13	1-D13	400x400 < A ≤ 800x800	4-D13	1-D13	<p>壁の開口補強要領</p> <p>注) 補強筋は D13-200mm</p>	<p>土間コンクリートに補強筋を入る場合</p> <p>注) 補強筋は D13-200mm</p>	<p>直接基礎と基礎梁接合部の補強</p> <p>注) 補強筋は D13-200mm</p>	<p>梁の配筋要領</p> <p>注) 1 スラブラップの間隔の最大値は L/4 である。 2 スラブラップは規定寸法に割込みとする。 3 スラブラップの位置は柱の筋位置とする。 4 基礎梁が柱市制の場合にスラブラップは D16-4 200mm</p>																																
開口の寸法	表鉄筋補強筋	底鉄筋																																												
200x200 < A ≤ 400x400	2-D13	1-D13																																												
400x400 < A ≤ 800x800	4-D13	1-D13																																												
<p>吊り用フック詳細</p> <table border="1"> <tr> <th>吊り荷重</th> <th>孔筋径</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>≤ 2t</td> <td>19φ</td> <td></td> </tr> </table>	吊り荷重	孔筋径	備考	≤ 2t	19φ		<p>階段配筋詳細 (片持上り型)</p> <p>注) 補強筋は D13-200mm</p>	<p>斜交筋の補強要領</p> <p>注) 補強筋は D13-200mm</p>	<p>梁の打埋要領</p> <p>注) 補強筋は D13-200mm</p>	<p>梁の打埋要領</p> <p>注) 補強筋は D13-200mm</p>	<p>設計番号</p> <p>図面番号</p> <p>設計事項</p> <p>縮尺</p>																																			
吊り荷重	孔筋径	備考																																												
≤ 2t	19φ																																													